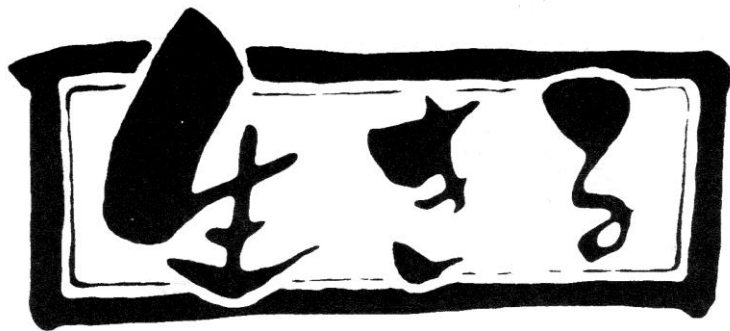




真宗大谷派 存明寺通信

No.233

2026年(仏歴2557年)9月1日

ぞんみょうじきょうさんほうよう

存明寺慶讃法要(11月2日・3日)にご参詣下さい

■ぞんみょうじきょうさんほうよう
存明寺慶讃法要 2026

11月2日(月)

13時 受付・開会

14時 音楽法要

15時 記念講演(一楽 真氏)
「仏教は何を教えているのか」

16時 慶讃コンサート(ヒナ タカコ氏)
※終了後「慶讃のゆうべ・交流会」

11月3日(火)

12時 受付・お斎(精進料理)・開会

13時 音楽法要

14時 記念講演(一楽 真氏)
「教えとの出会いが開く世界」

15時 慶讃コンサート(ヒナ タカコ氏)

※終了後「祝賀会」があります。

主催

真宗大谷派 存明寺
しんしゅうおおたには ぞんみょうじ



いよいよです 2026年(令和8年)11月2日(月)14時～・3日(火)12時～

ぞんみょうじきょうさんほうよう

存明寺慶讃法要(宗祖親鸞聖人御誕生八百五十年・立教開宗八百年・烏山移転百年)を厳修

いちらく まこと

特別ゲスト: 一楽 真氏(大谷大学)・ヒナ タカコ氏(シンガーソングライター・僧侶)

ご挨拶

11月に行われる慶讃法要とは、宗祖親鸞聖人がこの世に誕生されて八百五十年・浄土真宗が立教開宗して八百年という節目の法要です。

親鸞聖人は、人と生まれ、様々な苦悩をいただき、そのことが仏縁となつて、浄土真宗という教えに出遇われました。

私たちは人と生まれて、様々な問題を抱える存在です。そのような私たちが大切にするべきことは、問題をなくすことではなく、「人と生まれて 教えに出遇う」ということです。

この法要が、一人ひとりの教えに出遇う歩みの出発点となることを、ひたすら願っております。

真宗大谷派 存明寺
住職 釋諦信



存明寺慶讃法要に どうぞご参詣ください

慶讃法要

企画あれこれ



①音楽法要

親鸞聖人の教えを、仏教讃歌によつて表現する法要です。従来からの仏教讃歌に加え、住職のメッセージの朗読やヒナタカさんによる献歌『夢のかなた』の独唱、そして皆さんと共に行う正信偈の同朋唱和。存明寺独自の音楽法要をお勤めします。音楽を通して、教えに出遇うひとときを、ぜひ一緒にしましょう。

②親鸞聖人へのポエム

ご門徒の皆さんから親鸞聖人へお手紙を書いていただきました。

その文章をつなぎ合わせてひとつの手紙にしたものをご披露します。今回の法要が、親鸞聖人に出遇う出発点になれば、と願っています。

③私の出遇った大切な一言

それぞれが今までの歩みの中で出遇った大切な一言と、その思いを法要中に発表します。後日出版される「記念誌」には全員の方の文章が掲載されます。言葉に出会い、人は生まれるのです。

④朗読劇

この日のために練習を重ねてきたスタッフによる朗読劇を、1日目の方の交流会にてご披露します。テーマは「二人のパンタカ」。教えに出遇うことは、新しい何かに気づいていくこと。そんなメッセージが響いてきます。

⑤こども食堂出店

今年で11年目になる「ぞんみようじこども食堂」。毎月1回、約70名の方々が集まっています。定番メニューは野菜たっぷりのキーマカレー。食堂スタッフがこの日のために、少量ながら自信作を提供します。

⑥記念誌出版

この度の慶讃法要を、次世代にもつなげることを願い、講義録や私の出遇った大切な一言などが満載の記念誌『生きる』を後日出版します。

「人と生まれて 教えに出遇う」というテーマよ、永久に流れよ。





創作法話

健太郎くんの見た地獄と極楽

酒井 義一

その男の子の名前は健太郎くん。小学校5年生。とっても元気がいい。でも、勉強は大嫌い。

「ただいま〜」

といって学校から走って帰ってくると、ランドセルをポーンと放り投げ、ゲームのいっぱい詰まったバッグを持って、

「行つてきま〜す」

と元気よく家を飛び出していきました。その時です。自動車！急ブレーキ！

「キキキキッー」

気がつくと健太郎くん、暗い闇の中、白くい道の上をひとりトボトボと歩いていました。やがて道がふたつに分かれるところにやってくる、真ん中にエンマさまがいました。

「やあ、君は健太郎くんだね。う〜ん、残念。君はまだ死んでは

いない。だから、ここから先には行くことができない。でもせっかくここまで来たのだから、ちよつとのぞいていくといいよ、左に行くと地獄、右に行くと極楽浄土。」

健太郎くん、最初に地獄をのぞいてみることにしました。地獄という、怖い鬼がいるのではないかと思いましたが、その世界は私たちの世界とあまり変わりがありません。人々の心の中には自分さえよければそれでいい、他人はどうなってもかまわない、という心がありました。

自分さえよければそれでいい。実は私たちの中にあるそういう心が、やがて地獄を作ります。私たちの中には地獄を作ってしまう心があるのです。これが健太郎くんの見た地獄という世界でした。

次に健太郎くん、極楽浄土をのぞいてみることにしました。さぞかし人々は仲良く平和に暮らしているのではないかと思つてのぞいてみると、極楽浄土は地獄とたいして変わりがありません。争い・けんか・不登校・いじめ・・・。同じように人々は心に闇を抱え、

時に間違いを犯す。そんな世界でした。

でも、ひとつだけ違うことがあったのです。その極楽浄土には、大きな鏡がありました。全世界を映し出すような大きな鏡があったのです。人々は、その前で立ち止まり、自分の中に地獄を生み出す心があることをちゃんと知つていく、そういう生き方をしていたのです。

自分のことをちゃんと知つていく。これはとっても大切なことです。よい成績をとることよりも、よい学校に行くことよりも、なぜなら、どれだけよい子になれたとしても、みんな心の中に闇を持っているからです。

やがて健太郎くん、元の世界に帰る時がきました。エンマさまは最後にこう言いました。

「地獄・極楽という世界は、死んだ後に行く世界ではない。今この世の中にある世界なんだ。どうか、自分のことをちゃんと知つていく、そういう生き方を大切にしてほしい。それが健太郎くんの人生の宿題。そう、人生の宿題だよ。」

人生の宿題。健太郎くん、勉強

は嫌いです。宿題も大嫌い。けれどもエンマさまが言った人生の宿題、大変心に残りました。何か大切なあとに思いました。自分のことをちゃんと知つていく・・・。

ふつと気がつくと健太郎くん、家の前で倒れていました。車はピタッと止まって、かすり傷ひとつありませんでした。あまりびっくりしたので、しばらく気を失っていたのです。これが健太郎くんの体験した不思議な物語です。

自分のことをちゃんと知つていく。そういう生き方を一人ひとりが見つけていく。これが私たちの人生の宿題です。私たちには闇があるのですから。

誰もが持っている人生の宿題。皆さん、この宿題をけつして忘れないように生きていきましょう。おしまい、おしまい。

『ほとけさまのおはなし』
東本願寺出版より引用



2026（令和8）年 お寺のひろば

- 9月12日（土） 14時 樹心の会
音楽法要と「私の出遇った大切な一言」
- 9月18日（金） 13時 おそうじの日
慶讃法要に向けて庭木の剪定と清掃
- 9月23日（水） 11時と13時 秋のお彼岸法要とお話（住職と門徒有志）があります。
- 9月26日（土） 14時 グリーフケアのつどい
大切な方を亡くした人々のつどい
- 10月10日（土） 14時 樹心の会
音楽法要と「私の出遇った大切な一言」
- 10月19日（月） 13時 庭木の剪定と清掃
- 10月20日（火） 13時 庭木の剪定と清掃（予備）
- 10月23日（金） 10時 おみがきのつどい
仏具のおみがきと清掃のつどい
- 11月2日（月） 14時 存明寺慶讃法要
3日（火） 12時 存明寺慶讃法要
講師：一楽真氏（大谷大学）
ヒナタカコ氏（歌手）
- 11月14日（土） 14時 樹心の会
存明寺慶讃法要を振り返って①
- 12月12日（土） 14時 樹心の会
存明寺慶讃法要を振り返って②
- 12月19日（土） 14時 グリーフケアのつどい
大切な方を亡くした人々のつどい
- 1月1日（元日） 10時 修正会
- ※真宗聖典輪読会・こども食堂・こども会・子育てサロンも定期的に活動中です。

存明寺写真館

おぼん法要の風景

2026年7月12日（日）



お寺の掲示板

すきな自分
きらいな自分
どっちも自分
大切な自分

写真撮影：高橋昭彦氏（世話人）・吉山浩文氏（世話人）

【あとかき】

▼8月のお寺の掲示板から。「すきな自分 きらいな自分 どっちも自分 大切な自分」▼誰の中にもある好きと嫌い。でも、それでは、たまに悩む。他者への好きと嫌い。自分への好きと嫌い。▼でも大切にしたいこともある。好きと嫌いをいっぱい抱えているのが、実は私たち人間だということ。そんな私を見つめ続けてくれる世界があるということ。▼私がいくら自分を嫌っても、けっして私を見すてないものがある。私が私の人生をちゃんと生きていくことを、ずっと応援してくれる世界がある。それが浄土真宗という世界。▼だから私は今を生きていく。そんな世界に私たちは、出遇うのだ。▼11月2日と3日、存明寺にて慶讃法要が行われます。テーマは「人と生まれて 教えに出遇う」皆様のご参詣を、心より、心より、お待ちしております。

住職 藤

東京都世田谷区北鳥山4-15-1
真宗大谷派 存明寺（ぞんみんやうじ）
住職 酒井義一（釋諦信）
TEL 03-3300-5057
FAX 03-3300-5880
E-mail : sakai@zomyoji.jp